

# 平成28年度 地方公共団体定員管理研究会（第3回）

## 議 事 要 旨

1. 開催日時：平成28年10月25日（火） 10：00～12：00  
開催場所：消防庁会議室  
出席委員：西村座長、阿部委員、原田委員、古埜委員、森下委員  
(委員は五十音順)
2. 議事経過
  - (1)道府県の定員モデルに係る説明変数等について
  - (2)意見交換
3. 意見交換の概要
  - 今後の定員管理の参考となる要素の考慮について
    - ・人口減少社会の阻止に向けた、地方創生、移住、定住促進などの分野ではマンパワーが必要であり、また、民生部門などは一人一人に対する行政サービスが拡充されているので、人口と連動したモデルを策定するのは厳しいのではないか。
    - ・各自治体で人口が減らないように努力している中、人口が減る前提の定員モデルで職員数を示すというのはいろいろなところで説明が難しい。
    - ・定員モデルをどう使うかが重要であり、説明変数の設定の方法などを各自治体に説明し、例えば5年後、10年後の住民基本台帳人口の想定数値を使って職員数を推計するようにすれば、あえて人口の乗率を単純に職員数に掛けて一定で下げる必要はないと考える。
  - 民間委託等による業務対応への考慮について
    - ・一部委託という形を取ると線引きが難しいため、全部委託と全部直営の2パターンで良いのではないか。
    - ・民間委託を考慮することをやってはいけないとは思わないが、民間委託をしても固定的にやる仕事は残るので、民間委託を考慮した時にどこまでやるのか、何をやるのか、というのは難しいと感じている。
    - ・比較的乱暴に決めの問題として、委託している場合としていない場合でやってしまったら良いと思う。衛生部門は比較的、定型的にパターン化しやすいと思うので、整理・分析してみてもどうか。
  - $R^2$ 重視型と説明変数重視型について
    - ・2つのモデルがあると対外的に説明することが難しい。
    - ・2つあるよりは最初から1つにして定員モデルはこういうものだという方が

説明しやすい。

- ・説明変数重視型はまさしく説明が容易な変数を活用しているが、なぜその変数を活用しているのか突き詰められると主観的な要素が入ってくるので、その点を踏まえると $R^2$ 重視型の方が良い。
- ・変数として漏れているものがないか改めて検討し、決定係数至上主義ではなく、この変数であれば説明しやすいという実感による一本化を図った方が良いのではないか。

#### ○マイナスの t 値の取扱いについて

- ・マイナスになる説明変数は説明が難しい部分もあり、使わない方が良いのでは。
- ・マイナスであっても統計的には有意なので、マイナスは残しておいたほうが良いと思っている。マイナスになっているものの説明は難しいが、規模の効果や他の説明変数との関連から説明ができるものもあると思う。絶対値が2前後以上あるものについては残すべきではないか。
- ・元々定員モデルは行政需要主義に基づくものだと思われるので、マイナスというのは直感的に理解しがたいと思う。ただ、マイナスであっても直接行政需要とは違うけれど、遠因的な関わりから大事な変数になりえるとも考えられる。

#### ○現在候補になっていない変数

- ・公共施設の老朽化対策が業務量として増えていることから、建築部門で公共施設数を入れることはできないか。